

第5章 景 観

5-1 概 要

新建築物の存在が、地域景観に及ぼす影響について検討を行った。

5-2 調 査

現地調査により、現況の把握を行った。

(1) 調査事項

地域景観の特性

主要眺望地点からの景観

現況施設の圧迫感の状況

(2) 調査方法

地域景観の特性

現地踏査により行った。

主要眺望地点からの景観

住民や不特定多数の人が眺望できる場所を選定し、そこから事業予定地の方向を眺望した景観写真を撮影した。

現況施設の圧迫感の状況

事業予定地に近い主要眺望地点において、天空写真を撮影した。また、圧迫感の指標の一つである形態率を求めるために、この地点における形態率図を作成した。(形態率の概要は、資料7-1(資料編 p.277)参照)

なお、形態率を求める高さは、地上1.6mとした。

(3) 調査場所

地域景観の特性

事業予定地周辺

主要眺望地点からの景観

図2-5-1に示す11地点とした。

現況施設の圧迫感の状況

図2-5-1に示す2地点とした。

(4) 調査期間

現地踏査、景観写真及び天空写真の撮影は、平成21年8月24日及び8月26日に実施した。

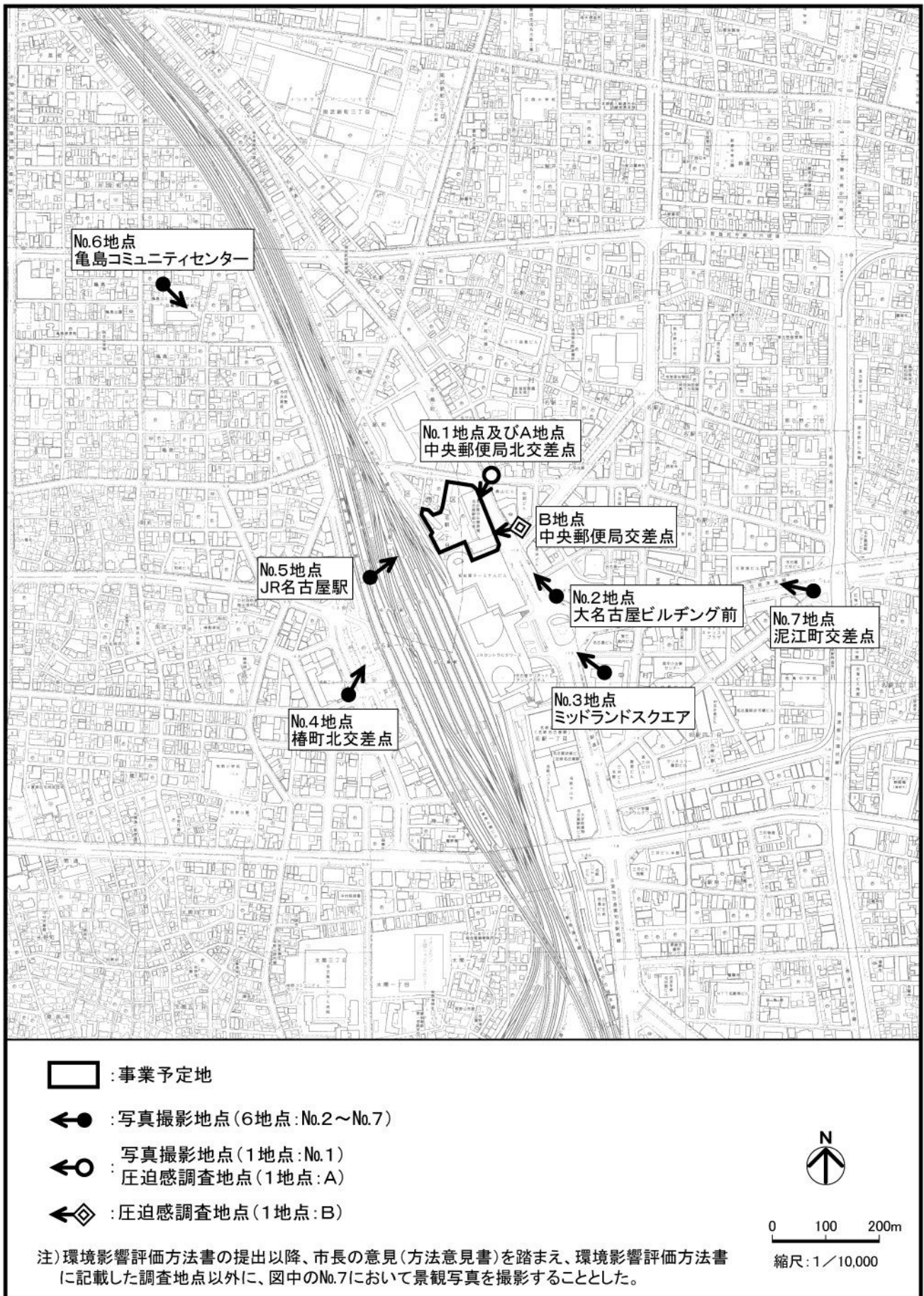


図 2-5-1(1) 景観調査地点図 (近景及び中景)

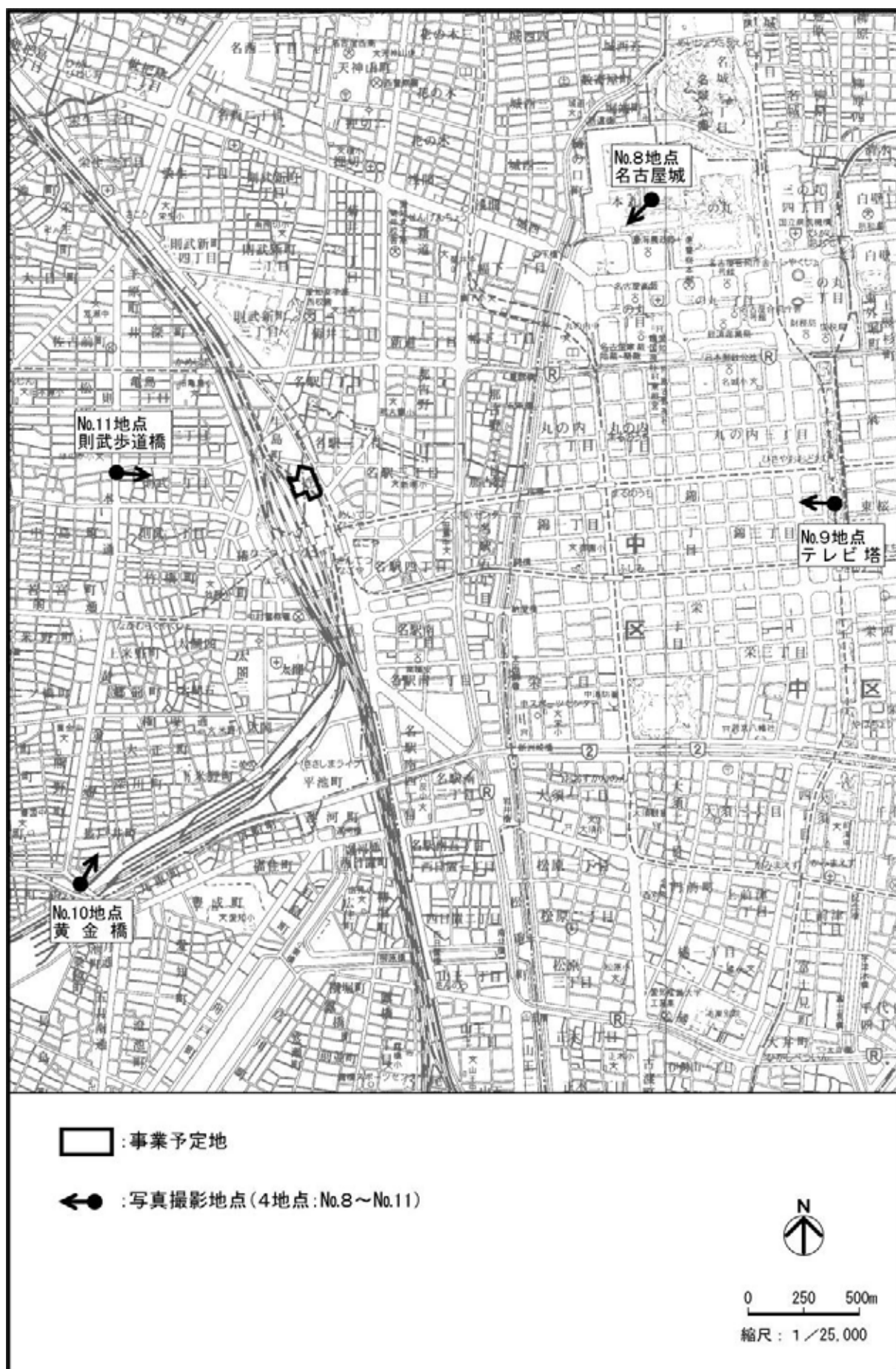


図 2-5-1(2) 景観調査地点図 (遠景)

(5) 調査結果

地域景観の特性

事業予定地は、名鉄、JR 東海、近鉄、あおなみ線及び地下鉄の鉄道駅に近接し、市内バス並びに高速バスの拠点である名古屋バスターミナルを備え、主要な幹線道路に面する地区である。また、事業予定地周辺は、タワーズ、ミッドランドスクエア、名古屋ルーセントタワー等が建ち並び、名古屋市の玄関口としての都市景観が形成されつつある。

事業予定地及びその周辺の状況は、写真 2-5-1 に示すとおりである。



写真 2-5-1 事業予定地及びその周辺の状況（撮影日：平成 20 年 7 月）

主要眺望地点からの景観

主要眺望点からの景観の状況は、後述する予測結果の現況の写真（写真 2-5-2～写真 2-5-12）に示すとおりである。

現況施設の圧迫感の状況

A 地点及び B 地点における天空写真の撮影結果は、後述する予測結果の現況の写真（写真 2-5-13 及び写真 2-5-14）事業予定地及びその周辺における建物の形態率は、後述する表 2-5-1 に示すとおりである。

5-3 予 測

(1) 予測事項

新建築物による景観の変化及び圧迫感の程度とし、具体的には、以下に示す項目について検討を行った。

- ・ 主要な眺望地点から事業予定地を眺望した景観
- ・ 圧迫感の程度

(2) 予測対象時期

新建築物の存在時

(3) 予測場所

主要な眺望地点から事業予定地を眺望した景観

現地調査を行った 11 地点とした。

圧迫感の程度

現地調査を行った 2 地点とした。

(4) 予測方法

予測手法

ア 主要な眺望地点から事業予定地を眺望した景観

主要眺望点における現況写真に、新建築物のイメージ図を描画したフォトモンタージュを作成して予測を行った。

なお、事業予定地に隣接する南側では、南地区新建築物の建設が計画されているので、フォトモンタージュを作成する際にはこの計画も含めて行った。

イ 圧迫感の程度

現況の天空写真に、新建築物のイメージ図を描画することにより、存在時における形態率を算定し、変化の程度を予測した。

なお、事業予定地に隣接する南側では、南地区新建築物の建設が計画されているので、イメージ図を描画する際にはこの計画も含めて行った。

予測条件

新建築物の配置、形状については、事前配慮に基づき、以下のとおりを設定した。

- ・周辺の既存建物及び南地区新建築物とのデザイン調和を図り、統一感と風格のある建築デザインとするとともに、透明感やシンプルさを持った構成とすることで、品格のある都市景観の形成に配慮する。
- ・高層部の壁面は、フィンや庇等を設置することで、伸びやかな繊細さと軽快感を表現するとともに、フィンやルーバーを強調するデザインとすることで、鳥の衝突回避に配慮する。
- ・新建築物の周囲に歩道状空地や広場状空地を設けることにより、圧迫感を緩和するように配慮する。
- ・低層部は、アトリウムやオープンスペースを設置し、緑を添えて人々が集う場所にする事で、ゆとりと潤いを創出しつつ、ガラスの壁面を通じて内部のアトリウムや店舗の賑わいが通りにしみ出る構成とする。

(5) 予測結果

主要な眺望地点から事業予定地を眺望した景観

各眺望点におけるフォトモンタージュは、写真 2-5-2～写真 2-5-12 に示すとおりである。これによると、景観の変化は次のとおり予測される。

ア №1 地点（中央郵便局北交差点・事業予定地北約 50m：写真 2-5-2）

新建築物の高層棟は、壁面のデザインにより、直線的で伸びやかなイメージの中にも繊細なアクセントを創り出している。また、北側の階段状の広場は、東側に植栽された中高木とともに、緑あふれるアメニティ空間を確保している。

イ №2 地点（大名古屋ビルヂング前・事業予定地南東約 150m：写真 2-5-3）

新建築物は、手前に存在する南地区新建築物の奥に高層棟の南壁面と東壁面を中心に眺望できるが、透明感やシンプルさが感じられ、周辺に調和した明るい印象を与えている。

ウ №3 地点（ミッドランドスクエア・事業予定地南東約 300m：写真 2-5-4）

新建築物は、ミッドランドスクエアのスカイプロムナード（展望台）から眺望でき、壁面のデザインにより、伸びやかで軽快感のある印象を与えている。また、東側には、名駅通沿いに中高木を植栽することにより、落ち着きのある空間を確保している。

エ №4 地点（椿町北交差点・事業予定地南西約 300m：写真 2-5-5）

新建築物は、手前に存在する南地区新建築物に隣接して眺望でき、名古屋駅周辺の新たなシンボリックな都市景観を創り出している。

オ №5 地点（JR 名古屋駅・事業予定地西約 150m：写真 2-5-6）

新建築物は、JR 名古屋駅のホームから名古屋駅の建築物や南地区新建築物と連続して眺望でき、透明感のあるシンプルなデザインにより、南地区新建築物や名古屋ルーセントタワー等と調和した印象を与えている。

カ №6 地点（亀島コミュニティセンター・事業予定地北西約 650m：写真 2-5-7）

新建築物は、旧亀島小学校の奥に眺望でき、周辺既存建物及び隣接する南地区新建築物と調和した印象を与えている。

キ №7 地点（泥江町交差点・事業予定地東約 600m：写真 2-5-8）

新建築物は、名古屋駅周辺の中層建築物群の奥に眺望できる。周辺景観の印象に大きな変化はなく、周辺の建物や名古屋津島線（桜通）の街路樹と調和した印象を与えている。

ク №8 地点（名古屋城・事業予定地東北東約 2 km：写真 2-5-9）

新建築物は、名古屋城周辺の緑地と名古屋駅周辺の高層建築物群の中心部に望むことができる。周辺景観の印象を大きく変えることなく、全体に調和のとれた都市景観を形成している。

ケ №9 地点（テレビ塔・事業予定地東約 2.5 km：写真 2-5-10）

新建築物は、名古屋駅周辺の中高層建築物群とともに建ち並び、現状では散在しているイメージの高層ビルを、南地区の新建築物とともに連続的につなげる景観の構成要素となっている。

コ №10 地点（黄金橋・事業予定地南西約 2 km：写真 2-5-11）

新建築物は、名古屋駅周辺の高層建築物群とともに建ち並び、タワーズと名古屋ルーセントタワーの間に、南地区の新建築物とともにバランスよく配置されている。

サ №11 地点（則武歩道橋・事業予定地西約 1 km：写真 2-5-12）

新建築物は、則武歩道橋東向き進行方向のほぼ正面に見渡せ、風格と統一感のある、新たに加わるシンボルとしての都市景観を創り出している。

[現 況]



[存在時]

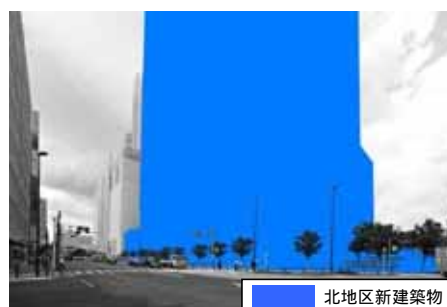


写真 2-5-2 № 1 地点（中央郵便局北交差点、撮影日：平成 21 年 8 月 26 日）

[現 況]



[存在時]



写真 2-5-3 №2 地点（名古屋ビルディング前、撮影日：平成 21 年 8 月 26 日）

[現 況]



[存在時]

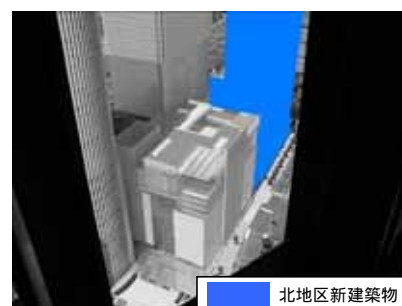


写真 2-5-4 №3 地点（ミッドランドスクエア、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

[現 況]



[存在時]

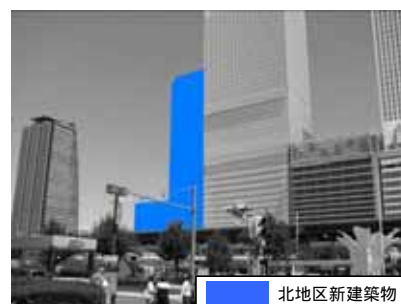


写真 2-5-5 №4 地点（椿町北交差点、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

[現 況]



[存在時]

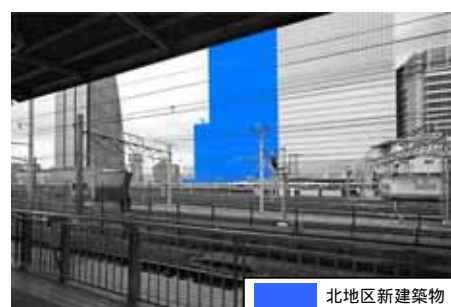


写真 2-5-6 № 5 地点 (J R 名古屋駅、撮影日：平成 21 年 8 月 26 日)

[現 況]



[存在時]



写真 2-5-7 №6 地点（亀島コミュニティセンター、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

[現 況]



[存在時]



写真 2-5-8 №7 地点（泥江町交差点、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

[現 況]



[存在時]

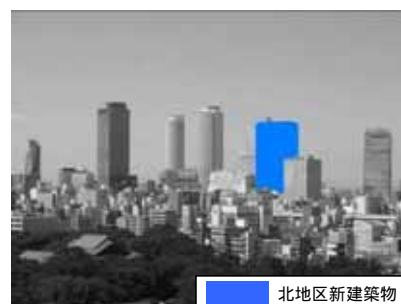


写真 2-5-9 № 8 地点（名古屋城、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

[現 況]



[存在時]



写真 2-5-10 № 9 地点（テレビ塔、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

[現 況]



[存在時]



写真 2-5-11 №10 地点（黄金橋、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

[現 況]



[存在時]

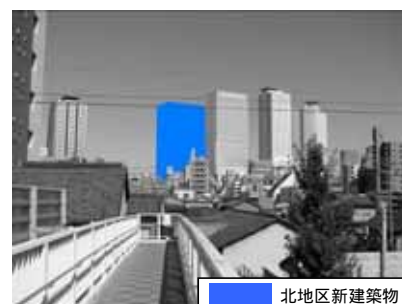


写真 2-5-12 №11 地点（則武歩道橋、撮影日：平成 21 年 8 月 24 日）

圧迫感の程度

予測地点における新建築物による形態率は表 2-5-1、天空図は写真 2-5-13 及び写真 2-5-14 に示すとおりである。また、南地区新建築物の計画を含めない場合の天空図は、資料 7 - 2（資料編 p.278）に示すとおりである。

これによると、存在時における形態率は、地点 A で 59%、地点 B で 63% と予測され、新建築物が存在することにより、地点 A は 8 ポイント、地点 B は 7 ポイント増加すると予測される。

表 2-5-1 形態率の変化

予測地点	現況 (%)	存在時 (%)	変化量 (ポイント)
			-
地点 A	51	59	8
地点 B	56	63	7

[現 況]



[存在時]

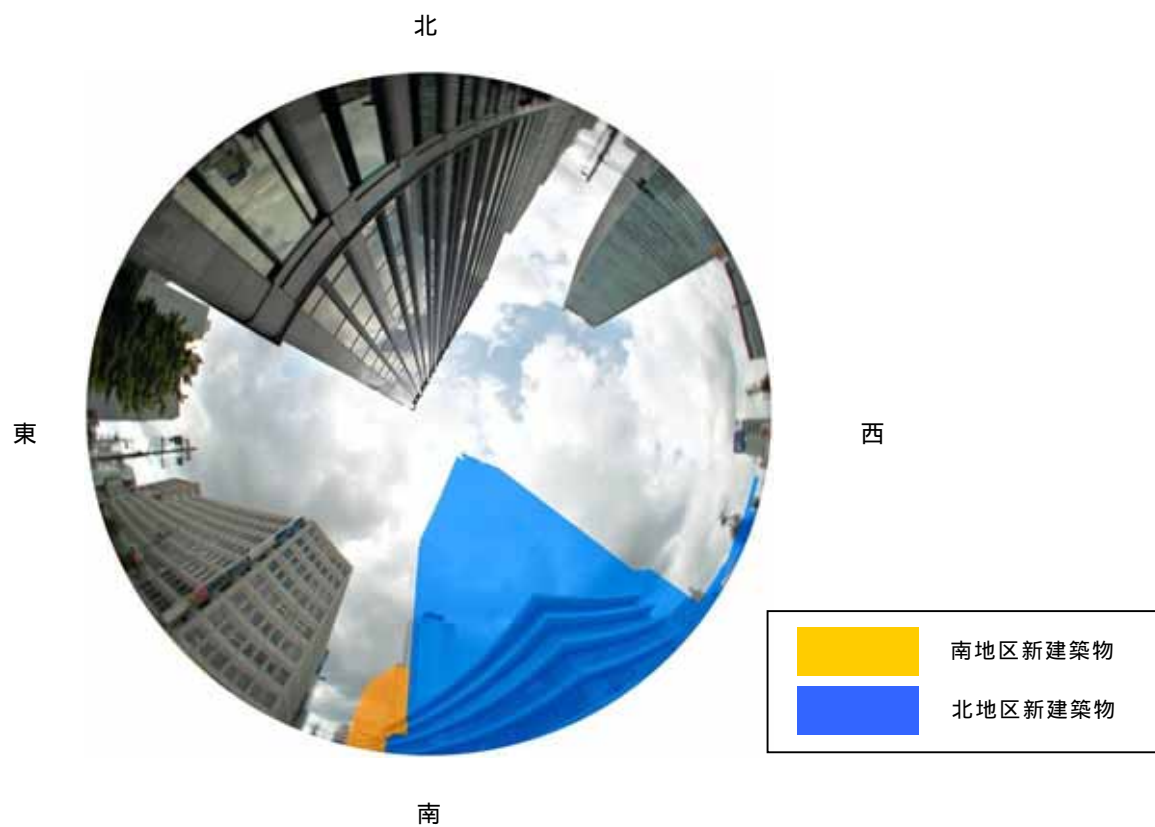


写真 2-5-13 天空図（地点 A：中央郵便局北交差点）

[現 況]



[存在時]

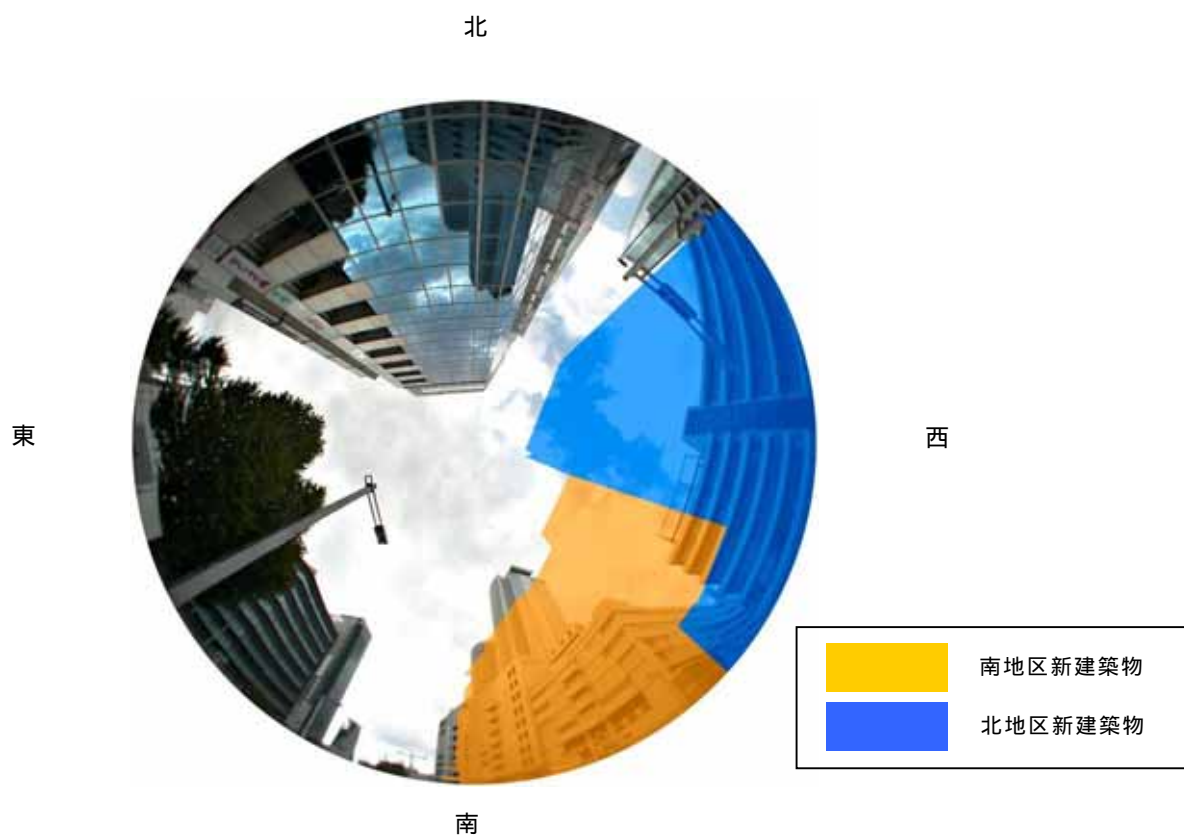


写真 2-5-14 天空図（地点 B：中央郵便局交差点）

5-4 環境の保全のための措置

(1) 予測の前提とした措置

- ・周辺の既存建物及び南地区新建築物とのデザイン調和を図り、統一感と風格のある建築デザインとするとともに、透明感やシンプルさを持った構成とすることで、品格のある都市景観の形成に配慮する。
- ・高層部の壁面は、フィンや庇等を設置することで、伸びやかな繊細さと軽快感を表現するとともに、フィンやルーバーを強調するデザインとすることで、鳥の衝突回避に配慮する。
- ・新建築物の周囲に歩道状空地や広場状空地を設けることにより、圧迫感を緩和するように配慮する。
- ・低層部は、アトリウムやオープンスペースを設置し、緑を添えて人々が集う場所にする事で、ゆとりと潤いを創出しつつ、ガラスの壁面を通じて内部のアトリウムや店舗の賑わいが通りに滲み出る構成とする。

(2) その他の措置

- ・新建築物周辺に植栽を配置する。
- ・新建築物の色彩や素材等については、「名古屋市景観条例」に基づき、関係機関と協議を行い、周辺地区における都市景観との調和に努めるとともに、デザイン都市名古屋にふさわしい洗練されたイメージとなるよう配慮する。
- ・事業予定地内における空地の整備にあたっては、素材、色彩や植栽等について、隣接する歩道との調和に配慮する。

5-5 評価

予測結果によると、予測の前提とした措置を講ずることにより、新建築物は、名古屋駅周辺のランドマークとなるとともに中高層建築物群と調和した風格のある建築物となり、一連の都市空間が創出されると判断する。

圧迫感については、新建築物の存在により、形態率は7～8ポイント増加する。このことから、新建築物周辺に植栽を配置する等の環境保全措置を講ずることにより、圧迫感の低減に努める。